

① 申請者	広島県尾道市	② タイプ	地域型 A B C D E
③ タイトル			
【尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市】			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>尾道三山と対岸の島に囲まれた尾道 は、町の中心を通る「海の川」とも言うべき尾道水道の恵みによって、中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄し、人・もの・財が集積した。</p> <p>その結果、尾道三山と尾道水道の間の限られた生活空間に多くの寺社や庭園、住宅 が造られ、それらを結ぶ入り組んだ路地・坂道とともに中世から近代の趣を今に残す箱庭的都市が生み出された。</p> <p>迷路に迷い込んだかのような路地や、坂道を抜けた先に突如として広がる風景は、限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。</p>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	広島県 尾道市 企画財務部 政策企画課 協働推進係 政 岡 雅 規		
電 話	(0848) 38-9435	FAX	(0848) 37-2740
E-mail	kikaku@city.onomichi.hiroshima.jp		
住 所	〒722-8501 広島県尾道市久保1丁目15番1号		

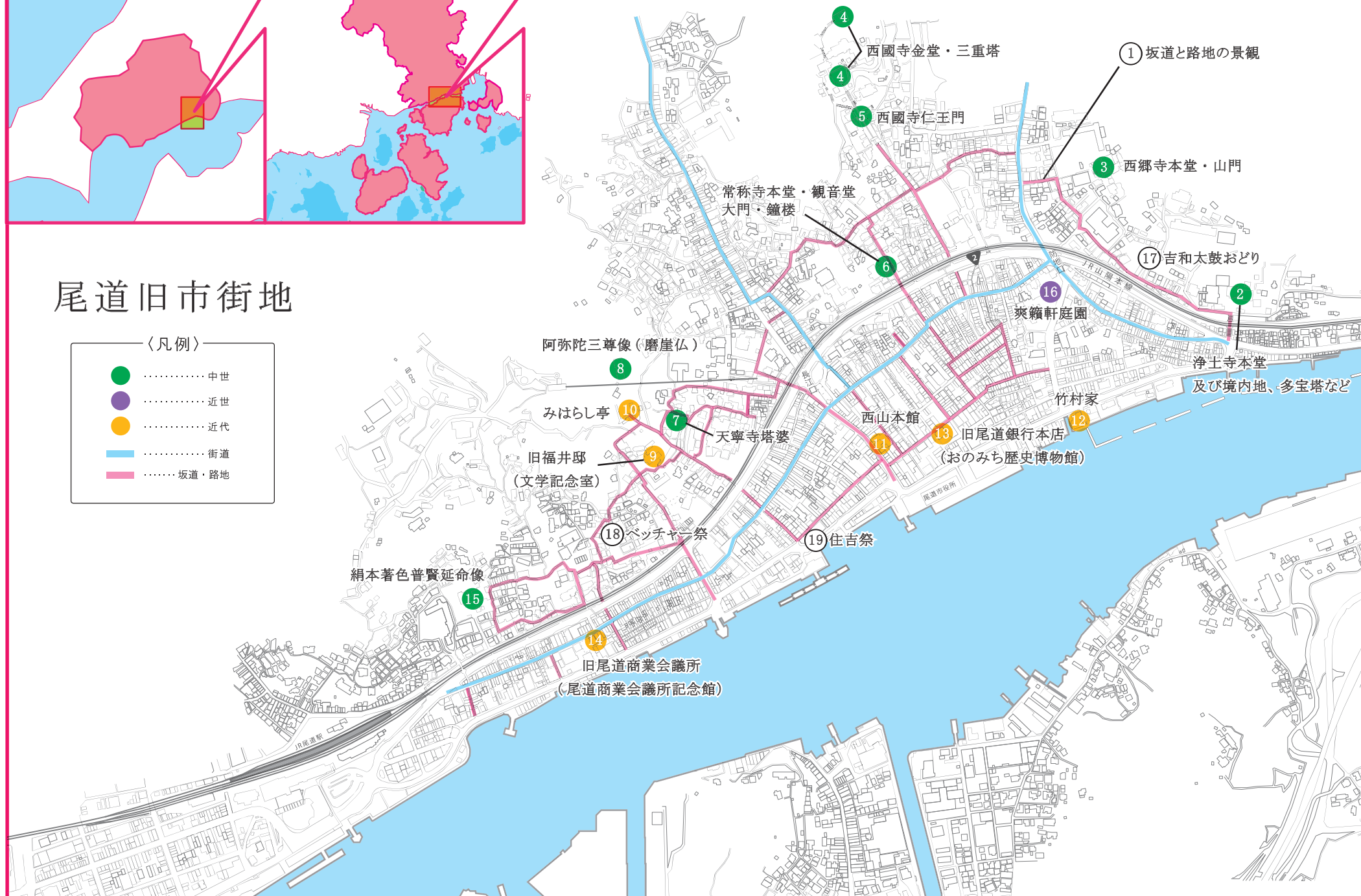
広島県

尾道市

尾道旧市街地

〈凡例〉

- 中世
- 近世
- 近代
- 街道
- 坂道・路地



ストーリー

船に乗って尾道水道を進むと、川を遡っているような感覚になるだろう。尾道水道は、瀬戸内海に面した港町尾道と対岸の向島に挟まれた幅狭の水道で、いわば「海の川」である。利便性の高い「海の川」は重要な交通路として多くの商人に重宝され、尾道は、中世には瀬戸内海の人・もの・財が集積する港町として発展した。

この尾道水道と尾道三山（大宝山・摩尼山・瑠璃山）に縁どられた狭小な空間には、町の発展とともに多くの寺社が建てられた。寺社が増えるに従い、その周辺に更に家々が密集して建ち並び、現在の水道間際まで家々がせまる風景が作り出されることとなった。

船上から尾道を眺めれば、尾道三山と街の景色が一望できる。それぞれの山腹に中世の塔がそびえたち、その眼下には寺社と家々がひしめき合って山の斜面に建ち並んでいて、その間を縫うように路地と坂道が続いている景色である。

尾道の住民は、尾道水道とともに生き、暮らしてきた。



尾道水道と斜面地の景観



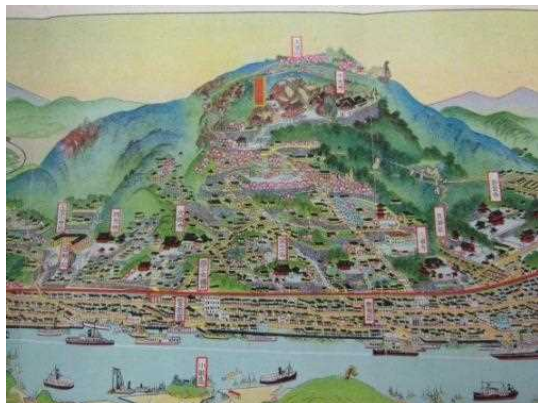
尾道水道と斜面地の景観

「この所のかたちは北にならびて、あさぢ深く岩ほこりしける山あり。ふもとにそひて家々所せくならびつつ、あみほすほどの庭だにすくなし。西よりひんがしに入うみとをく見えて、朝夕しほのみちひもいとはやりかなり。風のきをひに従ひて、行くる舟のほかげもいとおもしろく、遥なるみちのくつくし路のふねも多くとゆたゐたるに、・・(略)」

この名文は、南北朝時代の著名な武将であり歌人の今川了俊^{いまがわりようしゅん}が書いた紀行文『道ゆきぶり』の一節である。中世の尾道の様子を最も美しく表した文章で、尾道三山と尾道水道に囲まれた港町に網を干すほどの庭も少ないほど、家々が密集しており、尾道水道は潮の流れも速く、風の吹くまま行き交う船の帆影も面白く、遠く東北や九州への船も寄港しているなど、当時から既に自然の良港として、瀬戸内随一の港町の発展の様子がうかがえる。

栈橋で船から降りると、太鼓の音やにぎやかな町の声が聞こえてくる。町中では四季折々の祭礼や伝統行事が行われており、細い路地でひしめき合う住民の中を、神輿などが練り歩き、町全体が活気にあふれている。

栈橋から斜面地に足を向けると、山麓の約2kmの範囲に今も中世から続く25の寺院が並び立っている。これらの寺社や住宅をつなぐ路地や坂道をたどれば、目の前に突然、寺院の大きな屋根や庭園をもつ住宅が現れたりする。また、斜面地には、生活に必要な井戸が点在し、その傾斜を利用して二階井戸が生まれ、坂道の上下の住宅で共有して井戸が使える仕組みができるなど、路地と坂道に点在する井戸端が、住民が集まる立体的な空間となっている。



尾道市観光案内（明治時代）



尾道市全景（明治時代）

こうした路地や坂道が尾道の生活基盤となっており、寺社や住宅、庭園そして港、尾道水道をつなげ、人々をつなげている。その路地や坂道を作り出している石段、石畳、石垣などは全て岩山である尾道三山から切り出された石でできていて、尾道は狭小な空間に展開する巨大な石造物といえる。路地や坂道を歩けば、こうした石垣や石段、井戸、さらには、寺社の石塔や狛犬、燈籠などの美しい石造物や巨岩に出会うことができる。斜面地では、不思議と祭りの喧騒もなく、静かで穏やかな時間が流れている。また、ふと振り返ると、坂道から対岸の向島や尾道水道、そして尾道の町並み全体を見渡すことができ、寺社や住宅と一体化した石造物に囲まれ、山と海と地域の一体的な景観の中にいる感覚を体験することができる。

尾道に住んだ志賀直哉は小説『暗夜行路』で、対岸の向島から石切場の人々の唄や作業の音が聞こえてきたり、千光寺の鐘の音がすぐ反響することなど、箱庭的要素を描き出した。現在でも対岸の造船所の音や尾道水道を通る船の音などが町中で聞こえてくる。

斜面地から下ると、境内を線路や道路で分断された寺社を抜け、密集した家々とそれをつなぐ細い路地が見える。路地に一步入ると、その先には神社や近代的な建物、住宅を改装したお洒落な店舗など、尾道が歩んできた様々な時代の文化を感じることができる。

このように、尾道では路地と坂道が複雑に入り組み、さらに人を迷わせ、迷路に迷い込んでしまったような感覚を体験できる。路地と坂道を抜けた先には、突如として、美しい尾道水道や寺社建築が姿をみせ、別世界に入り込んでしまったような空間が広がる。

尾道は、こうした限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。



小路から見る尾道水道



ベッチャー祭



斜面地の坂道

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	坂道と路地の景観	未指定	斜面地と尾道水道沿いに縦横にめぐる急な坂道と細い路地は、寺社や近代化遺産などをつなぐ道であり、山と海と地域の一体的な景観を生み出している。	
②	浄土寺本堂及び境内地、多宝塔など	国 宝	尾道水道から港に入ると真っ先に見える中世寺院。本堂を始めとして中世の伽藍が残り、浄土寺山と一体となって箱庭の一部を形成する。	
③	西郷寺本堂・山門	国重文	本堂・山門は、背後の浄土寺山の稜線と美しい調和がとられ、寺院と山がセットで成立している。その隣には昭和初期の小学校建築物があり、参道でつながっている。	
④	西國寺金堂・三重塔	国重文	参道からの境内が最も広大な寺院。参道が市民の生活道であり、寺院と山と周囲の町並みが一体化している。坂道の途中に表れる中世寺院。	
⑤	西國寺仁王門	県重文	参道の途中にある仁王門。坂道からも見える大草鞋は、市民の信仰によるもの。	
⑥	常称寺本堂・観音堂・大門・鐘楼	国重文	鉄道と国道に境内を分断された中世寺院。路地を抜けると民家の間に突然大門が現れる。	
⑦	天寧寺塔婆	国重文	周辺の近代建造物の中で、そびえたつ中世の塔。坂道と路地を歩くと眼前に広がる重厚な塔は、斜面地を代表する景観を形成している。	
⑧	阿弥陀三尊像（磨崖仏）	市重文	千光寺の参道を上がると見える磨崖仏。密教の修行場として、山頂の岩肌には多くの彫刻が残り、かつての石造文化の名残を残す。	
⑨	旧福井邸（文学記念室）	国登録	斜面地に建つ大正時代の代表的な邸宅。坂道と尾道水道の絶景を望めるこの場所では、近代の繁栄を思い起こすことができる。	
⑩	みはらし亭	国登録	斜面地に建つ大正時代の旅館。坂道と尾道水道の絶景を望めるこの場所では、近代の繁栄を思い起こすことができる。	
⑪	西山本館	国登録	大正時代建築の旅館。港、造船所関係者が多く宿泊し、外国人宿泊者用の洋室も残る。港周辺の土蔵とともに、港町の繁栄を思い起こせる。	

⑫	竹村家	国登録	大正時代建築の旅館。海辺に建つ景観から、『東京物語』のロケ地ともなった。	
⑬	旧尾道銀行本店 (おのみち歴史博物館)	市重文	大正時代建築の銀行。商都尾道の面影を残す建物で、港の中心にあった銀行浜に位置する。	
⑭	旧尾道商業会議所 (尾道商業会議所記念館)	市重文	尾道には全国で 30 番目に商業会議所が設置され、この建物は、大正時代の建築。商都尾道の中心であった。	
⑮	絹本著色普賢延命像 <small>けんぽんちゃくしよくふげんえんみょうぞう</small>	国 宝	持光寺が天台宗寺院の際に製作寄進された中世密教寺院の宝物。坂道の始まりの寺であり、中世の繁栄を物語る資料である。	
⑯	爽籟軒庭園 <small>そうらいけんでいえん</small>	市名勝	江戸時代の豪商、橋本家の別荘。まちの中でさらに箱庭的な庭園である。尾道水道からは、川でつながっていた。	
⑰	吉和太鼓おどり	県無形民俗	足利尊氏の戦勝祝いに漁師たちが踊ったことが起源とされ、中世からの港町を横断し浄土寺までの町中を歩き、浄土寺境内で踊りが奉納される。	
⑱	ベッチャー祭	市無形民俗	江戸時代に港の疫病を退散する目的での神輿巡行が起源とされ、三匹の鬼が寺社や住宅を結ぶ路地・坂道を巡る奇祭である。	
⑲	住吉祭	未指定	江戸時代に港町の商人たちにより始められ、尾道水道という港町の象徴的な空間の中であがる「東の両国、西の住吉」と呼ばれた花火まつり。	

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例：国史跡、国重文 (工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 坂道と路地の景観



④ 西國寺金堂、三重塔



② 浄土寺本堂及び境内地、多宝塔など



⑤ 西國寺仁王門



③ 西郷寺本堂・山門



⑥ 常称寺本堂・観音堂・大門・鐘楼



⑦ 天寧寺塔婆



⑧ 阿弥陀三尊像（磨崖仏）



⑨ 旧福井邸（文学記念室）



⑩ みはらし亭



⑪ 西山本館



⑫ 竹村家



⑬ 旧尾道銀行本店（おのみち歴史博物館）



⑭ 旧尾道商業会議所（尾道商業会議所記念館）



⑰ 吉和太鼓おどり



⑮ 絹本著色普賢延命像



⑱ ベッチャー祭



⑯ 爽籟軒庭園



⑰ 住吉祭

